

平成30年度

学生による 地域活性化プログラム 活動報告書



栗井英大ゼミナール



広田秀樹ゼミナール



鯉江康正ゼミナール



権 五景ゼミナール



平田沙織ゼミナール



権 五景ゼミナール



鈴木章浩ゼミナール

平成31年3月

ごあいさつ

長岡大学 学長 村山光博



長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、平成19年度の文部科学省現代的教育ニューズ取組支援プログラム(現代GP)に選定された「学生による地域活性化提案プログラム 一政策対応型専門人材の育成」に始まり、平成25年度からは文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に選定された「長岡地域<創造人材>養成プログラム」の一環として、発展・継続して取り組んで参りました。現在では、本学の特徴的な教育プログラムとして周辺地域における認知度がさらに高まってきていると実感しております。

長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。この取り組みが地域の活性化にまだ十分に貢献しているとは言えませんが、これまで本プログラムの運営に多大なご協力をいただいた地域連携アドバイザーの方々だけでなく、地域のたくさんの方々からも各取り組みテーマに対するお問い合わせや激励のお言葉をいただいております。また最近では、取り組みの中心である学生の活動について新聞やテレビ等のメディアでも取り上げていただく機会が多くなりました。地域の皆様には、日頃より本プログラムへの多大なるご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えは無いと思いますが、本プログラムでは、答えの無い地域課題に対して、それをどのように考え、どのように行動し、対応して行くのかを学生が自ら試行錯誤する中で体得していくことができます。本学を卒業して地域社会の一員となる学生が将来、地域が抱える課題に日々取り組んでいくことになると考えると、彼らにとってこれらの体験は大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生がグループで活動を進めて行くこととなりますが、時には活動で一緒になる地域の大人たちとの意見の食い違いや学生同士のちょっとしたすれ違い等が起きることもあります。このような体験も学生がさらに一步成長するきっかけとなります。ゼミで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者とかがわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで何かをやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむことで、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていける人材の育成を目指しております。長岡大学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人的づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

平成31年3月

学生による地域活性化プログラム

平成30年度 活動報告書 第I部

目 次

第1章	学生による地域活性化プログラムの概要	I-1
1.1	プログラムの位置づけ	I-1
1.2	プログラムの概要	I-1
第2章	平成30年度取組の経過	I-4
2.1	本年度取組の経過	I-4
2.2	平成30年度の学生による地域活性化取組ゼミ	I-5
2.3	平成30年度の推進体制	I-6
第3章	本取組における学生教育の評価	I-7
3.1	社会人基礎力の評価	I-8
3.2	ビジネス展開能力の評価	I-10
第4章	取組結果のまとめ	I-12
4.1	取組成果と今後の課題	I-12
4.2	取組結果の概要	I-13
参考資料		
1	学生による地域活性化プログラム平成30年度成果発表会（ポスター）	I-20
2	社会人基礎力診断シート	I-21
3	平成30年度「地域活性化プログラム成果発表会」意見シート	I-22

学生による地域活性化プログラム
平成30年度 活動報告書 第Ⅱ部

学生による活動報告 目次

栗井 英大 ゼミ	
長岡の誇れる地域資源を若人に広めよう！ ～長岡版「工場の祭典」の開催を～	Ⅱ－1
広田 秀樹 ゼミ	
グラスルーツグローバルゼーション －草の根・地域からの地球一体化・人類統合の推進－	Ⅱ－45
鯉江 康正 ゼミ	
「まちの駅」から地域の魅力を発信し、 交流人口の増加に寄与したい！	Ⅱ－91
権 五景 ゼミ	
酒粕で長岡を盛り上げよう！ －カスを価値に！－	Ⅱ－149
平田 沙織 ゼミ	
商いを通じて学ぶ会計と経営戦略 ～地域に貢献する商品開発を通じて～	Ⅱ－201
権 五景 ゼミ	
十分杯で長岡を盛り上げよう！ 世界と長岡の繋がり	Ⅱ－251
鈴木 章浩 ゼミ	
地元企業の働き方を知る	Ⅱ－305

学生による地域活性化プログラム
平成30年度活動報告書

第 I 部

学生による地域活性化プログラム

平成30年度 活動報告書 第I部

目 次

第1章	学生による地域活性化プログラムの概要	I-1
1.1	プログラムの位置づけ	I-1
1.2	プログラムの概要	I-1
第2章	平成30年度取組の経過	I-4
2.1	本年度取組の経過	I-4
2.2	平成30年度の学生による地域活性化取組ゼミ	I-5
2.3	平成30年度の推進体制	I-6
第3章	本取組における学生教育の評価	I-7
3.1	社会人基礎力の評価	I-8
3.2	ビジネス展開能力の評価	I-10
第4章	取組結果のまとめ	I-12
4.1	取組成果と今後の課題	I-12
4.2	取組結果の概要	I-13
参考資料		
1	学生による地域活性化プログラム平成30年度成果発表会（ポスター）	I-20
2	社会人基礎力診断シート	I-21
3	平成30年度「地域活性化プログラム成果発表会」意見シート	I-22

第1章 学生による地域活性化プログラムの概要

1.1 プログラムの位置づけ

「学生による地域活性化プログラム」は、「平成19年度採択文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P） 学生による地域活性化提案プログラムー政策対応型専門人材の育成ー（平成19年度～21年度）」（略して、地域活性化G P）を継続的に行う取組であるが、提案にとどまらず具体的な行動を学生が行うことによって、学生の社会人基礎力と地域貢献を目指すものである。

地域活性化G Pは、長岡市の総合計画を題材に地域活性化提案を行うものであったが、本プログラムは「NPO法人長岡産業活性化協会（NAZE）との共同研究」や「地域コミュニティ」など、広く中越地域や新潟県を対象とした取組である。また、活動は本学3，4年生のゼミを基本とするが、ゼミを越えたチーム・任意団体でも良い。

（注）「学生による地域活性化提案プログラムー政策対応型専門人材の育成ー」については、長岡大学ブックレット第16号『長岡大学教育プログラムVI 学生による地域活性化提案プログラムー政策対応型専門人材の育成ー』を参照されたい。

1.2 プログラムの概要

(1) プログラムの内容

長岡市は三度にわたって11市町村で合併したが、新市として発展する上で様々な地域課題の解決に迫られている。また、地域創生や人口減少問題もあり、地域問題は益々広域化し、より独自の方向性の検討が期待されている。

本プログラムにおいては、学生グループが長岡地域や新潟県の課題を対象に実地に調査研究を行い地域活性化方策の提案・地域活性化の実践を行う。これによって、学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への貢献を同時に実現することを目的とする。

本プログラムの内容は、①問題解決型教育＝体験・参加型教育の実践として、②長岡地域および新潟県内、またより一般的に地域の課題（環境、福祉、市民生活、産業等）をゼミナール（3年次，4年次）のテーマとしてとりあげ、③ゼミナールの学生グループがテーマごとに設ける地域連携アドバイザー（市担当者、関係団体の職員等）との緊密な連携と専門教員の指導の下に、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献するとともに、その活動を広報し、地域社会にフィードバックすることである。

(2) プログラムの趣旨・目的

長岡大学は地域の産業界のニーズに対応した「幅広い職業人」の育成を第一の使命として設立された。長岡大学の教育の基本は社会人基礎力とビジネス展開能力（企画力、提案力）の育成、ビジネスの現場に直結した専門的な知識とスキルの習得である。この考えを実現するため、地域の産業界との緊密な連携の下に実践的教育を展開する「産学融合型専門人材開発プログラムー長岡方式ー」を確立した。

本プログラムは既に確立している長岡大学の教育プログラムをさらに発展させ、産業界だけでなく、まちづくりや生活環境の改善など地域社会のニーズにも貢献で

きる人材を育成することを第一のねらいとしている。長岡地域は、この11年の間に「7.13水害」、「中越大震災」、「豪雪」と多くの災害にみまわれてきた。そのような経験の中で、地域社会が必要とした人材は、自分で判断して行動できる実践力のある人材であった。本取組は、学生をこのような地域が求める人材に育て上げることを目的としている。

(3) 学生教育の目標、養成する人材像

本学の基本理念に対応して、長岡大学改革宣言（平成16年10月発表）において、本学の教育の目標を次のように掲げた。

地域社会、地域の企業と連携し、地域の産業界のニーズに直結した長岡大学独自の「ビジネス能力開発プログラム」を展開し、ビジネスを発展させるための企画を立て、提案し、実行させる能力と人間力のある人材を創造する。

さらに、学生に対して「毎日の学生生活で充実感を、レベルアップを確認して達成感を、卒業のときに4年間を振り返って満足感を」実感してもらうことを約束している。

本取組は、上記のような本学の教育の目標と学生に対するコミットメントを達成することと、本学の基本理念を具体的に実践することを目指した教育プログラムの一環である。

本プログラムは、産業界ばかりでなく、市民活動やNPO等の非営利的な活動をも含めて、地域社会と連携し、地域の活性化に貢献できる実践力のある人材育成を目指すものである。

(4) 設定する学生教育の目標と養成する人材像のニーズ

本取組における学生教育の目標は、

- ① 社会人基礎力(アクション力、シンキング力、チームワーク力)の向上
- ② ビジネス展開能力(企画力・提案力・実行力)の向上
- ③ 専門的技法に関するスキルの向上

である。

専門的技法として学習するものは、情報・データ収集技法（情報検索、インターネット活用）、統計分析技法（統計の読み方、表計算ソフトの応用）、社会調査技法（アンケート、インタビュー）、レポート作成法、プレゼンテーション技法などである。なお、専門的技法については「学生による地域活性化提案プログラム－政策対応型専門人材の育成－平成19年度活動報告書」（平成20年3月、長岡大学）を参照されたい。

上記の能力と技法を身につけ、実際に長岡地域の社会的問題に関わった学生は、地域社会が必要とする、自分で判断して行動できる実践力のある人材として歓迎されると考えている。

(5) 目標を達成するための教育プログラム

本プログラムは、3、4年次のゼミナールにおける問題解決型教育（Problem-based Learning、Project-based Learning、PBL）＝体験・参加型教育の実践により、学生の企画・提案力の向上を図ろうとするものである。プログラムは大きく、

- ① 実課題の設定（地域社会が実際に解決したいと考えている問題を理解した上で、取り組むべき実課題の設定を行う）
- ② 参考になる情報やデータの収集（実課題に関係する調査報告、統計データ、論評、過去の経緯等を収集し要点を整理する）
- ③ フィールド調査の実施（アンケート調査やヒアリング調査、市民活動への参加を通じて、市民や産業界が真に求める施策や地域が活性化するための方策を検討し実際に活動する）
- ④ 報告書の作成と発表（調査検討を通じて得られた知見をもとに報告書の作成を行うとともに、行政当局、市民団体、企業等の関係者、市民に対して活動報告を行う）

の4つのステップで構成されるが、課題の選択、活動の内容等によって具体的な方法は様々なものになる。それについては「4.2 取組結果の概要」を参照されたい。



第2章 平成30年度取組の経過

2.1 本年度取組の経過

平成30年度の「学生による地域活性化プログラム」の主な実施経過は次のとおりである。

<平成30年度取組の経過>

4月19日（木）	平成30年度第1回地域活性化プログラム運営部会開催
5月24日（木）	平成30年度第2回地域活性化プログラム運営部会開催
6月20日（水）	平成30年度第1回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
6月21日（木）	平成30年度第3回地域活性化プログラム運営部会開催
7月19日（木）	平成30年度第4回地域活性化プログラム運営部会開催
8月28日（火）	鈴木ゼミ：中間レビュー
9月20日（木）	平成30年度第5回地域活性化プログラム運営部会開催
10月18日（木）	平成30年度第6回地域活性化プログラム運営部会開催
10月27日（土） ～28日（日）	悠久祭（大学祭）において、地域活性化プログラムの活動を紹介
11月5日（月）	鯉江ゼミ：中間レビュー
11月6日（火）	広田ゼミ：中間レビュー
11月12日（月）	鈴木ゼミ：中間レビュー
11月13日（火）	権ゼミ：中間レビュー
11月21日（水）	平田ゼミ：中間レビュー
11月26日（月）	栗井ゼミ：中間レビュー
11月22日（木）	平成30年度第7回地域活性化プログラム運営部会開催
12月1日（土）	平成30年度地域活性化プログラム成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
12月5日（水）	平成30年度第2回地域活性化プログラム推進協議会・交流会開催 於：長岡大学
12月20日（木）	平成30年度第8回地域活性化プログラム運営部会開催
1月24日（木）	平成30年度第9回地域活性化プログラム運営部会開催
2月21日（木）	平成30年度第10回地域活性化プログラム運営部会開催
3月18日（月）	平成30年度地域活性化プログラム活動報告書発行 （合冊並びに各取組7分冊）

2.2 平成30年度の学生による地域活性化プログラム取組ゼミ

本年度は6ゼミ7取組が実施された。各取組の活動報告については「第4章 取組結果のまとめ」を、学生が作成した成果報告については「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照されたい。

<取組ゼミとテーマ>

ゼミ名	テーマ
栗井 英大 ゼミ	長岡に誇れる地域資源を若人に広めよう！
広田 秀樹 ゼミ	グラスルーツグローバルイノベーション ～草の根・地域からの地球一体化・人類統合の推進～
鯉江 康正 ゼミ	「まちの駅」から地域の魅力を発信し、 交流人口の増加に寄与したい！
権 五景 ゼミ	酒粕で長岡を盛り上げよう！
平田 沙織 ゼミ	商いを通じて学ぶ会計と経営戦略 ～地域に貢献する商品開発を通じて～
権 五景 ゼミ	十分杯で長岡を盛り上げよう！
鈴木 章浩 ゼミ	地元企業の働き方を知る

(注) 成果発表会での発表順および「第Ⅱ部 学生による活動報告」の掲載順である。



2.3 平成30年度の推進体制

平成30年度の「学生による地域活性化プログラム」の推進体制は、次のとおりである。

<総合アドバイザー>

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
株式会社パルメソ	代表取締役	松原 亨
長岡市地方創生推進部政策企画課	課長	茂田井裕子

<地域連携アドバイザー>

所 属	職 名	氏 名
株式会社アルモ	代表取締役社長	柴木 樹
長岡市 商工部 工業振興課	課長補佐	山田 哲也
グリーン・フィロソフィー		大出 恭子
フェアトレードショップ ら・なふう	オーナー	若井由佳子
全国まちの駅連絡協議会	関東甲信越運営監事	中川 一男
長岡市 市民協働推進部 市民協働課	主任	岩嶋 雄人
朝日商事株式会社	店長	平田 誠
株式会社FARM8	代表取締役	樺沢 敦
岩塚製菓株式会社	商品企画部 係長	小黒 和幸
長岡市 商工部 産業支援課	商工企画係 主任	下田 嵩
長岡市 川口支所 地域振興課	教育支援係 係長	渡辺 茂
魚沼市役所 農林課 農政室	主事	中澤 司
株式会社ジェイマックソフト	総務部 課長	監物 陽介
長岡市 商工部 産業支援課	雇用促進係 係長	諸橋亜希子

<学内推進委員>

ゼミ担当教員	准教授	栗井 英大	ゼミ担当教員	教 授	権 五景
ゼミ担当教員	教 授	広田 秀樹	ゼミ担当教員	専任講師	平田 沙織
ゼミ担当教員	教 授	鯉江 康正	ゼミ担当教員	専任講師	鈴木 章浩

(注) 成果発表会での発表順および「第Ⅱ部 学生による活動報告」の掲載順である。

第3章 本取組における学生教育の評価

地域活性化プログラムにおける教育上の最も重要な目標は、社会人基礎力の向上にある。社会人基礎力は、多様な個性をもった多数の人間で構成される「現実の社会」で、生き抜くために必要な基本的能力である。

これから現実の社会で働き、生き抜いて行く必要がある若者が、身に付けなければならない能力である。長岡大学にあっては、学生の社会人基礎力を最大限伸長させることを重視し、あらゆる機会を通じて、学生の能力向上にチャレンジしている。地域活性化プログラムこそ、社会人基礎力育成教育の支柱である。

社会人基礎力は、大別して、アクション力・シンキング力・チームワーク力で成り立つ。そして、アクション力・シンキング力・チームワーク力は、以下のようなそれぞれの「サブレベル能力」で、構成される。

アクション力は、「主体性・働きかけ力・実行力」の3つの「サブレベル能力」で、成り立つ。

チームワーク力は、「発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力」の6つの「サブレベル能力」で、構成される。シンキング力には、「課題発見力・計画力・創造力」の3つがある。

社会人基礎力は「12のサブレベル能力」で構成され、「12のサブレベル能力」を伸ばすことが、「社会人基礎力全体」を伸ばすことにつながる。

本年度は「参考資料」のような、「12のサブレベル能力とは何か」、「12のサブカテゴリーで、自分が今、どの程度の段階にあって、どのサブレベル能力を伸ばして行くべきか」を明確にした、長岡大学独自の新しい「社会人基礎力評価シート」を開発した。

このシートは、「学生がイメージしやすいわかりやすい文章」でできている。シート活用によって、学生は「社会人基礎力の12のサブレベル能力」を、先ずよく理解した。そして、「今自分が、各サブレベル能力カテゴリーで、5段階中のどの段階にあって、今後どの能力を伸ばしていかなければならないか、ということを確認できた」。

このシートを活用した調査は、地域活性化プログラムの始まる前期と、プログラムでの活動を経験した最終段階の後期の2回実施した。

分析においては、教員側が参加学生全員の「地域活性化プログラム」への「貢献度」・「成長度」を、「A・B・C」で判定することで、「地域活性化プログラムでの能力伸長」を、確認できるようにした。

3.1 「地域活性化プログラム」による学生の社会人基礎力の伸長

今年度の地域活性化プログラムへの参加学生は、70人であった。その中で、社会人基礎力の「前期調査の総得点」から「後期調査の総得点」が伸長した学生は、32人であった。4年生で伸長した学生は、14人。3年生は16人。2年生は2人だった。

学生の社会人基礎力を伸長させた要因の中には、課外活動、友人との交流、アルバイト、就職活動、その他、多様なファクターが入ってくる。学生は日々、複数の変化する状況で、社会人基礎力を伸長させる体験をしている。

そこで、伸長した学生32人の中で、地域活性化プログラム担当教員の、地域活性化プログラム参加の当該学生の「貢献度」評価・「成長度」評価を、照らし合わせた。

教員の「貢献度」評価A・「成長度」評価A、両方Aの学生と、上記の前期から後期へと、社会人基礎力が伸長した学生で合致する者は、18人であった。

地域活性化プログラムに積極的に参加した学生18人が、社会人基礎力を確実に伸長させていることがわかる。

社会人基礎力シートの「12のサブレベル能力」においては、5段階評価の「3」が平均的水準である。概ね、「3」より低い数値をつける学生は少なかった。「12のサブレベル能力」で、極端に低く実感する学生は少ない。

5段階評価において、「高い数値」に入る「4以上」の視点で、学生の「12のサブレベル能力」を、地域活性化プログラムが最終段階に入ったときのデータ、「後期調査」で俯瞰してみると、以下のようなことがわかる。

アクション力の「主体性」で「4以上」の学生は、25人、全体の35%。「働きかけ力」で「4以上」の学生は、21人、全体の30%。「実行力」で「4以上」の学生は、26人、全体の37%、である。

—「アクション力」で高い数値「4以上」の学生<後期調査結果>—

サブレベル能力	人数	参加学生全体の中でのシェア
主体性	25人	35%
働きかけ力	21人	30%
実行力	26人	37%

チームワーク力の「発信力」で「4以上」の学生は20人、全体の28%。「傾聴力」で「4以上」の学生は、36人、全体の51%。「柔軟性」で「4以上」の学生は、33人、全体の47%。「状況把握力」で「4以上」の学生は、33人、全体の47%。「規律性」で「4以上」の学生は、33人、全体の47%。「ストレスコントロール力」で「4以上」の学生は、25人、全体の35%、であった。

—「チームワーク力」で高い数値「4以上」の学生〈後期調査結果〉—

サブレベル能力	人数	参加学生全体の中でのシェア
発信力	20人	28%
傾聴力	36人	51%
柔軟性	33人	47%
状況把握力	33人	47%
規律性	33人	47%
ストレスコントロール力	25人	35%

「シンキング力」の「課題発見力」で「4以上」の学生は25人、全体の35%。「計画力」で「4以上」の学生は22人、全体の31%。「創造力」で「4以上」の学生は、19人、全体の27%、であった。

—「シンキング力」で高い数値「4以上」の学生〈後期調査結果〉—

サブレベル能力	人数	参加学生全体の中でのシェア
課題発見力	25人	35%
計画力	22人	31%
創造力	19人	27%

総じて、各サブレベル能力全体で、参加学生の3割程度が高い水準にあることがわかる。



3.2 ビジネス展開能力の評価

ビジネス展開能力（企画、提案）については、『成果発表会』において、参加者（地域連携アドバイザー、一般参加者、本学学生、本学教職員）から「地域活性化プログラム成果発表会意見シート（参考資料4）」にて、取組の評価等をいただいた。意見シートは、292名に対して253名回収できた。回収率は86.6%である。当日は7取組の発表がなされた。

(1) 取組テーマ（タイトル）と内容の合致

取組テーマ（タイトル）と内容の合致については、「合致していた」との回答が全体で91.3%であった。概ね評価されたのではないかと見られる。しかし、今後活動を進めるなかで活動の範囲や方向性が変わっていく可能性もあることから、この点は引き続き担当教員が指導していくことが望まれる。

Q1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致していましたか。

		合致していた	あまり合致していなかった	合致していなかった	小計	無回答	合計
実数（人）	アドバイザー16名	89	18	1	108	4	112
	一般40名	215	28	4	247	33	280
	学生175名	1,096	73	5	1,174	51	1,225
	教職員22名	130	14	2	146	8	154
	合計253名	1,530	133	12	1,675	96	1,771
構成比（%）	アドバイザー16名	82.4%	16.7%	0.9%	100.0%		
	一般40名	87.0%	11.3%	1.6%	100.0%		
	学生175名	93.4%	6.2%	0.4%	100.0%		
	教職員22名	89.0%	9.6%	1.4%	100.0%		
	合計253名	91.3%	7.9%	0.7%	100.0%		

(2) 取組は地域活性化に役立つ

各取組の地域活性化については、「役立つ」という回答は、全体で75.5%であった。しかし、アドバイザーは66.7%、教職員は66.9%と一般や学生と比較するとやや低い結果となった。再度、大学内における方向性の確認、意識統一が必要ではないか。

Q2 この取組は地域活性化に役立つと思いますか。

		役立つ	どちらともいえない	役立つしない	小計	無回答	合計
実数（人）	アドバイザー16名	72	33	3	108	4	112
	一般40名	175	57	8	240	40	280
	学生175名	912	232	27	1,171	54	1,225
	教職員22名	97	45	3	145	9	154
	合計253名	1,256	367	41	1,664	107	1,771
構成比（%）	アドバイザー16名	66.7%	30.6%	2.8%	100.0%		
	一般40名	72.9%	23.8%	3.3%	100.0%		
	学生175名	77.9%	19.8%	2.3%	100.0%		
	教職員22名	66.9%	31.0%	2.1%	100.0%		
	合計253名	75.5%	22.1%	2.5%	100.0%		

(3) 取組の評価

取組の評価については、「高く評価できる」が55.4%であった。また、「評価できる」まで加えると90.6%で、昨年同様、それなりに取組が評価されていることがわかる。本学学生をみると両者の合計は93.2%である。この結果からも、シンポジウム等への参加機会や学生間の交流機会を増やしていくことが、学生の興味を引き起こし、社会人基礎力を向上させたり、ビジネス展開能力を養成したりするために必要であると思われる。

Q3 学生の取組として評価できると思いますか。

		高く評価 できる	評価できる	やや物足り ない	あまり評価 できない	小計	無回答	合計
実数 (人)	アドバイザー16名	36	55	14	3	108	4	112
	一般40名	103	110	28	5	246	34	280
	学生175名	726	365	68	12	1,171	54	1,225
	教職員22名	60	58	26	1	145	9	154
	合計253名	925	588	136	21	1,670	101	1,771
構 成 比 (%)	アドバイザー16名	33.3%	50.9%	13.0%	2.8%	100.0%		
	一般40名	41.9%	44.7%	11.4%	2.0%	100.0%		
	学生175名	62.0%	31.2%	5.8%	1.0%	100.0%		
	教職員22名	41.4%	40.0%	17.9%	0.7%	100.0%		
	合計253名	55.4%	35.2%	8.1%	1.3%	100.0%		

(4) 発表の仕方

発表については、「非常に優れていた」が48.7%、「優れていた」が40.9%で、この評価は厳しいものであった。このプログラムも地域活性化GPの取組から通算すると12年目であるが、実際に発表する学生は毎年変わるため、壇上で一般市民をも含めた方々の前での発表は初めての経験という学生が多い。しかし、各ゼミの活動が年々成熟度を増している中、発表スキルについても求められるレベルが年々高まっているのではないだろうか。今後は、活動内容はもちろんであるが、発表方法についても年々レベルアップできるよう、ゼミナール内における引継方法の検討や意識改革が必要である。

Q4 発表の仕方についてどう感じましたか。

		非常に 優れていた	優れていた	やや問題あ り	問題あり	小計	無回答	合計
実数 (人)	アドバイザー16名	25	58	20	2	105	7	112
	一般40名	85	133	27	2	247	33	280
	学生175名	653	419	80	16	1,168	57	1,225
	教職員22名	48	72	23	3	146	8	154
	合計253名	811	682	150	23	1,666	105	1,771
構 成 比 (%)	アドバイザー16名	23.8%	55.2%	19.0%	1.9%	100.0%		
	一般40名	34.4%	53.8%	10.9%	0.8%	100.0%		
	学生175名	55.9%	35.9%	6.8%	1.4%	100.0%		
	教職員22名	32.9%	49.3%	15.8%	2.1%	100.0%		
	合計253名	48.7%	40.9%	9.0%	1.4%	100.0%		

第4章 取組結果のまとめ

平成30年度長岡大学「学生による地域活性化プログラム」のまとめとして、今後の課題と各取組の概要を整理しておく。なお、各取組の詳細な内容は「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照されたい。

4.1 今後の課題

長岡大学の「地域活性化プログラム」は、10年以上にわたって、学生の社会人基礎力を伸長させる、教育プログラムの支柱になってきた。

今、人口構造の激変を背景に、日本の地域は異次元の困難な段階に入っている。地域での「内発的な協力」こそが、持続的に地域社会を支え、安定させるために最も重要になってきている。地域の中で、高い社会人基礎力をそなえた若い人材が育成され、地域で活躍して行く大きな流れを創造する必要がある。若き人材が身に付けるべき能力は複数ある。豊かな教養、高度な専門知識、高度な思考力といった、伝統的な大学のアカデミックな要素も、長岡大学は徹底して提供している。学生の知的水準は、どんどん高くなっている。

しかし、近年の若者は、幼少の頃から、スマートフォン、ゲーム機器といった、「一人で充実できる環境」の中で育ち、「対人力・対話力・組織人としての能力」といった、激動する社会で生き抜くための基本的能力が、十分につけられない環境にある。20年、30年前の、それらの能力を大半の若者が、自然に身に付けていった時代と、現代は、全く違う。

現代の若者も、生きて抜くために、多様な個性をもった人間群の嵐の中で、糧を得ていかなければならない。そのためには、従来の大学が提供していたアカデミックな学習のみでは、不十分である。

この一点を、最も早く認識し、地域活性化プログラムという、学生に地域での「体当たりの体験学習」を提供する教育手法を導入し、軌道に乗せたのが、長岡大学である。

「地域活性化プログラム」に参加した多くの学生が、現実の地域に生きる人間の中に、飛び込み、悪戦苦闘する中で、「12の能力」を確実に身につけている。予想外の事態が何度もおき、面くらひ驚き、それでも悪戦苦闘をつきぬけ、見事にプログラムを継続し、結果として、社会人基礎力を飛躍的に伸ばした学生を、本年度も多くみた。社会人基礎力を鍛えるために、絶大な体験学習の場を踏めるのが、長岡大学の「地域活性化プログラム」である。

今後は、このプログラムに思い切って参加し飛び込む学生を、さらに一人でも増やして行くことこそが、課題である。

当初は、3年生からのみ参加できる「地域活性化プログラム」であったが、近年、2年生から参加できるように、制度変更した。

その結果今年も、2年生から参加する学生が、現れてくれた。その学生たちは、机上の学習はもちろんしてきた優秀な学生であった。しかし、いま自分が不足している「社会人基礎力」を何とか伸ばしたいと、地域活性化プログラムに参加し、体当たりで地域に飛び込み、チャレンジし、現実到大成長した。

こういった学生の成長のドラマを、着実に増やして行くことが、今後も大切である。

4.2 取組結果の概要

以下、本年度の取組結果の概要をパネルで紹介して、第I部のまとめとしたい。



平成30年度 学生による地域活性化プログラム

栗井英大
ゼミナール

長岡の誇れる地域資源を若人に広めよう！ ～長岡版「工場の祭典」の開催を～



【参加学生】9名
4年生 植栗卓 加藤雄大 菅野拓巳 捧杏実 鈴木祐輝
矢島洋輔 Phan Huynh Thuy Duong
3年生 小口統為
2年生 井木一真

【アドバイザー】
株式会社アルモ 代表取締役社長 柴木樹氏
長岡市商工部工業振興課 課長補佐 山田哲也氏



ものづくりえんにち
のスタッフを経験

子どもたちに、ものづくりの楽しさ
を知ってもらうためのイベント
「ものづくり体験」によって製造業
を身近に感じることができる！



長岡市役所へヒアリング

長岡の産業の歴史と歩みを学んだ。
石油産業を基礎に、
機械金属関連産業が発展。
しかし、
近年、事業所や従業員数は
減少傾向にある。

燕三条の工場の祭典へ参加

製造工程を見学できる
ものづくりの工程を体験できる
製品を購入することができるなど、
参加者が楽しめる工夫が随所に！
↓
燕三条地域の「ものづくり」をPR

長岡版
「工場の祭典」
の開催を！



市内企業へヒアリング

(株)アルモ、(株)小西鍍金、(株)難波製作所、
(株)太陽工機、マコー(株)を訪問。
世界にも類を見ない技術を持つ
長岡の企業の存在を知った！

燕三条地場産業振興
センターへヒアリング

運営側に「工場の祭典」の効果を知る
①観光客の誘致
②職人と産地の活力アップ
③後継者不足解消
④他企業との交流増加
⑤売上増加 などの効果！



「工場の祭典」を通じた製造業の活性化！
(新製品開発+他業種・他組織との連携)

↓
長岡全体の活性化に！



平成30年度 学生による地域活性化プログラム

広田秀樹
ゼミナール

グラスルーツグローバルイゼーション

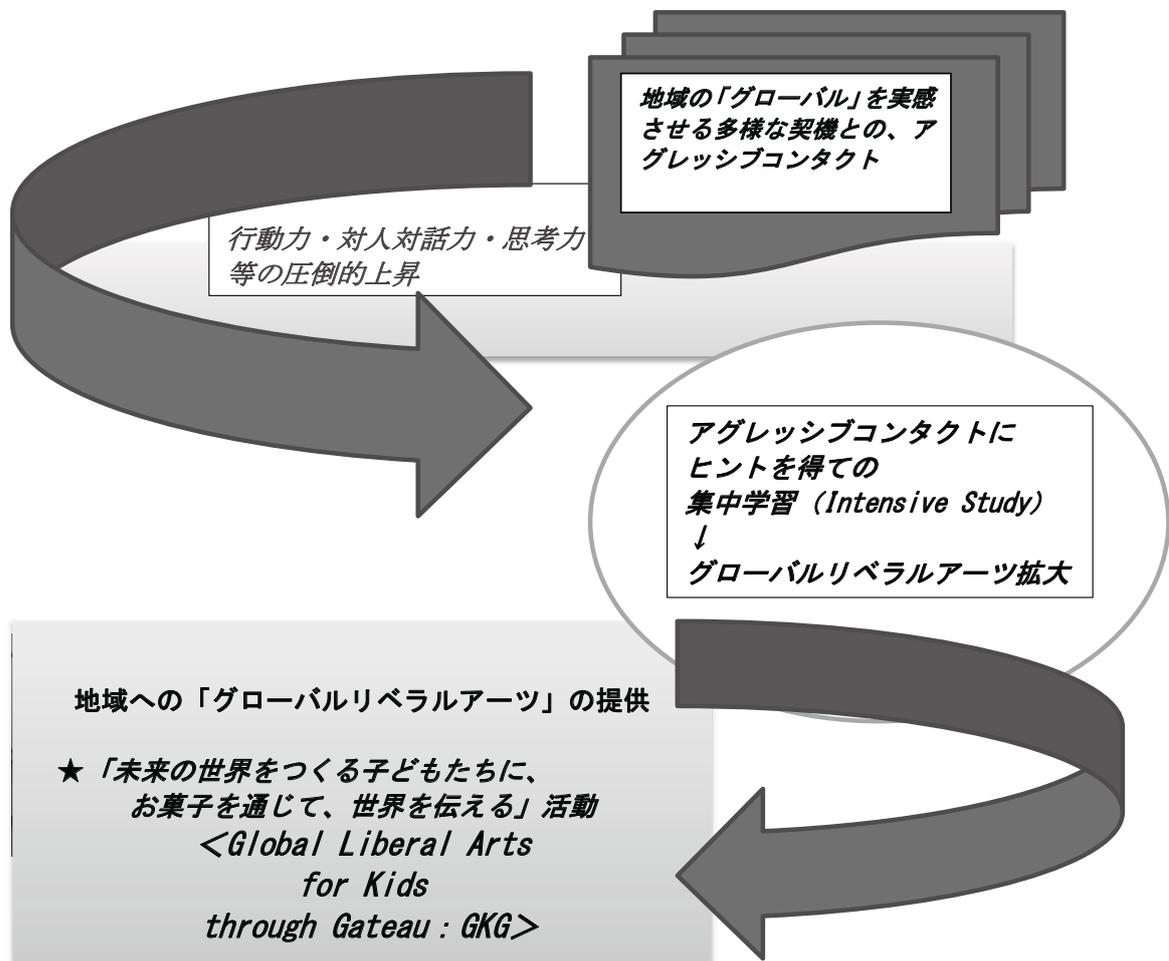
～草の根・地域からの地球一体化・人類統合の推進～



【参加学生】22名
4年生 安達清志 王世銘 児玉拓実 孫雪 辰口朋日 趙博文
陳楠萍 和田充史 渡邊周三 王艶
3年生 佐藤光 徐晗 邵群 住吉千穂 曹慧虹 政金光希 諸橋摩耶
Tran Thi Phuong Anh 黎雪鋒 Vu Thai Thanh Le Si Anh Phu
2年生 三本真太郎
【アドバイザー】
グリーン・フィロソフィー 大出 恭子 氏
フェアトレードショップ・ら・なぶう オーナー 若井 由佳子 氏

—本年度の活動方針—

「地域の多様なグローバルへのコンタクトを通じてのグローバルリベラルアーツ拡大」



平成30年度 学生による地域活性化プログラム

鯉江康正
ゼミナール

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、
交流人口の増加に寄与したい！



【参加学生】13名

4年生 王巍 加藤茉那 Jargalsaikhan Byambatuvshin 新保聡
鈴木絵莉香 Gantumur Uugantsetseg Tsogoo Munkhzaya
Khurelbaatar Ganchimeg 李文秀
3年生 小出優花 近藤孝洋 山城時生 Tamir Ariunaa

【アドバイザー】

全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営監事 中川 一男 氏
長岡市市民協働推進部市民協働課 主任 岩嶋 雄人 氏

今年も合い言葉は『GO!』 活動は楽しく。やらされてるから、自ら活動し地域貢献を。

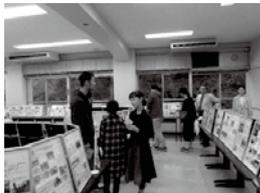
① 第21回まちの駅全国大会 in 会津



② FMながおかの長岡市内のまちの駅11駅の紹介番組
「長大生と行く！まちの駅ヒアリングGO!!」



③ 長岡大学学園祭「悠久祭」での「まちの駅パネル展」



④ 「まちの駅&どまいち 春の物産フェア（見附市）」



⑤ 「第33回田麦山ロードレース（長岡市川口地域）」



⑥ 「まちの駅NWかぬまとの交流事業（長岡市越路地域）」



⑦ 「とうきび観音祭り（長岡市栃尾地域）」



⑧ 「オールにいがたまちの駅交流会（見附市）」



⑨ 「ハロウィンみつけ（見附市）」



⑩ 「ハロウィーンいままち（見附市今町地域）」



平成 30 年度 学生による地域活性化プログラム

権 五景
ゼミナール

酒粕で長岡を盛り上げよう！



【参加学生】 4 年生 佐野毅 水落柊哉
Namjilsuren Uyanga 那 旭

3 年生 池田 哲 渡邊 聡
程 梓菲 邵 毅航

2 年生 五十嵐 凌 藤田 歩乃香

【アドバイザー】 株式会社 FARM8 代表取締役 樺沢 敦氏氏
朝日商事株式会社 店長 平田 誠氏

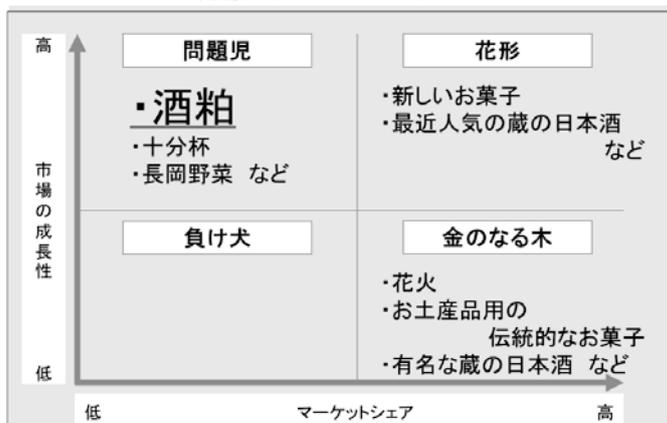
長岡は醸造のまちです。その中心は日本酒であり、酒造りの過程で得られる「酒粕」は地域資源と言えます。しかし、その活用法については、まだ不十分としか言いようがありません。そこで、私たちは、地域企業と連携して酒粕の新たな商品化を目指します。

— 権ゼミの基本的考え方 —

「経済発展は、
地理的特性と文化的特性に基づくため、
地域にあるものやことを有効に活用して
いかなければならない。」

私たち権ゼミナールは酒粕を有効に活用すべき地域資源だと位置づけることから活動を始めました。これまでは酒粕の可能性を、商品化を通して確認できました。私たちの考えを Boston Consulting Group が企業に向けて考案した、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント (PPM) を、長岡地域に置き換えたものです。

長岡版プロダクト・ポートフォリオ。



平成30年度 学生による地域活性化プログラム

平田沙織
ゼミナール

商いを通じて学ぶ会計と経営戦略 —地域に貢献する商品開発を通じて—



【参加学生】8名

3年生 荒木改 小林涼 志田和之 鈴木翔 鈴木康幸 服部亜衣梨
藤田健広 星野大樹

【アドバイザー】

岩塚製菓株式会社 商品企画部 係長 小黒 和幸 氏
長岡市商工部産業支援課 商工企画係 主任 下田 嵩 氏

平田ゼミでは、会計を実践的に学ぶため、『商い』をベースとした地域活性化（新商品開発と販売）を行っています。会計や経営戦略などを題材に自分で課題を見つけ、それをどのように解決していくのか、一人ひとりが一生懸命考えるゼミです。このゼミは、今年度から結成された新しいゼミです。企業とコラボレーションをして、長岡市や新潟県を盛り上げる新しい商品を開発しようという取り組みを掲げ、個性豊かでユーモア溢れる8人のメンバーが楽しく活動を行っています。

2018年度は、洋菓子・米菓・飲料のグループに分かれて活動をしました。普段お店などで目にする商品に、初期段階から学生たちが携わることができるため、学生たちは新商品開発に真摯に取り組んでいます。

具体的には、学生自身が選んだ企業に対して企画書を作成し新商品の提案を行い、提案が通った企業（岩塚製菓、シャトレゼ、関原酒造、ヤスタヨーグルト）や学校（長岡造形大学）と協力し試作品作りを行っています。岩塚製菓とコラボレーションして、“若者向けのおつまみ（米菓）”の開発を、シャトレゼとコラボレーションして“新潟らしいシュークリーム”の開発を、関原酒造・ヤスタヨーグルトおよび長岡造形大学とコラボレーションして“若い女性向けのヨーグルト酒”の開発をおこなっています。完成した商品は、県内だけでなく全国のスーパーや菓子店などで販売されます。自分たちが考えた商品が店頭に並ぶ日を楽しみに頑張っています。先の話にはなりますが、商品化された際には、ぜひ一度ご試食いただけたらと思います。

さらに、2018年10月には模擬店出店を行い、企画だけではなく店舗経営を通じた商品販売の戦略を模索しました。今回は模擬店コンテスト1位獲得を目標に、18年5月から話し合いを進めました。ブレインストーミングを用いた模擬店のアイデア出しを行い、模擬店を、肉巻きおにぎりに決定し、8月には試作会を行い、美味しさを追求するために3種類のレシピを検討したり、形や重さ、値段とどのバランスを考えました。

さらに、利益が出るためには、どのように販売すればいいのか販売戦略について試行錯誤し、訪問販売や模擬店のブランド化等アイデアを出し合いました。その結果、悠久祭では、模擬店コンテスト2位をいただくことができました。2019年度は、1位を取れるよう学生達は今から意気込んでいます。地域がより一層活性化するよう平田ゼミ一同頑張りますので、今後とも応援の程よろしくをお願いします。



平成 30 年度 学生による地域活性化プログラム

権 五景
ゼミナール

十分杯で長岡を盛り上げよう！

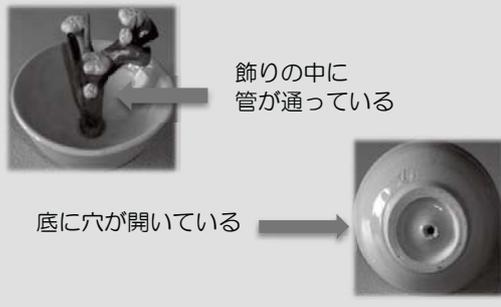


【参加学生】 4年生 佐野毅 水落柊哉
Namjilsuren Uyanga 那 旭
3年生 池田 哲 渡邊 聡
程 梓菲 邵 毅航
2年生 五十嵐 凌 藤田 歩乃香

【アドバイザー】 長岡市川口支所 教育支援係 係長 渡辺 茂氏
魚沼市役所農林課農政室 主事 中澤 司氏

ほかの杯と大きく異なる4つの点

- ① 杯なのに底に穴がある。
- ② 杯の中に「飾り」という突起がある。
- ③ 飾りの中は管が通っている。
- ④ この杯に一定の量(8 - 9分目程度)を超えて注ぐと中に入っていたすべてのお酒が底の穴から漏れてしまう。



長岡と十分杯の関わり

長岡藩と十分杯の出会いは三代藩主牧野忠辰公(まきのただとき 1665-1722)の時代にまで遡ります。

忠辰公以前からも武士は簡素な生活を旨としていました。ところが、元禄時代(1688-1704年)になると貨幣経済が発展し、戦国期の苦しい時代から民衆も生活水準が向上し、生活必需品以外を購入する余裕もでき、町人の生活が奢侈化するにつれて武士たちも同調し華美な生活をするようになりました。長岡藩も例外ではなかったのですが、高田城二の丸請収のための出費、度重なる水害で藩の財政が悪くなっていました。そこに、塚越という領民(おそらく庄屋)の持参した十分杯に忠辰公が感銘を受けて詩を詠み、処世訓としたことから長岡に十分杯が知られることになりました。忠辰公は、十分杯が持つ「満つれば欠く」という処世訓を藩士に示すことで、財政を引き締める一方で、武士としての戒めを大事にしたと思われます。

権ゼミ
オリジナルの
米百俵十分杯
と知足十分杯



十分杯製作風景
と実験道具



平成30年度 学生による地域活性化プログラム

鈴木章浩
ゼミナール

地元企業の働き方を知る



【参加学生】8名

4年生 青木洸 姉崎啓太 石川渚 遠藤優 小倉沙弥
小山毅 常山拓臣
3年生 古川大智

【アドバイザー】

株式会社ジェイマックスソフト 総務部 課長 監物 陽介 氏
長岡市商工部 産業政策課雇用促進係 係長 諸橋 亜希子 氏

活動の概要

鈴木ゼミナールは長岡市・長岡市周辺企業の「働き方」について調査し、発信して行くことを目標として活動している。昨年度は企業の人事施策に焦点を当てた、今年度は個人に焦点を当て地元企業で働く本学卒業生へのキャリアなどに関するヒアリングを通し先輩方の健闘を発信することにより、自分たちを含めた在学生の働くことへの意識の向上を図ること、地元企業と本学のむすびつきを地域にPRすることを目標とする。

活動実績（平成30年度）

1. 先行研究のレビュー
モチベーションに関する先行研究のレビュー
キャリア開発に関する先行研究のレビュー
2. マクロ雇用統計の調査
新規学卒者の就職に関する統計調査
転職に関する統計調査
3. 長岡大学卒業生へのインタビュー調査
石川 貴也 氏へのインタビュー調査
高橋 祐太 氏へのインタビュー調査
池田 昌之 氏へのインタビュー調査
加藤貴巳 氏、五十嵐秀也 氏へのインタビュー調査
他5名の卒業生のインタビュー調査



活動の成果

「今年度のゼミ活動では、早い段階で卒業生へのインタビューという活動目標を定めて、前期の期間中に多くのインタビュー活動を行うことができ、昨年のゼミ活動に比べて早い段階で活動を行うことができた。」

「昨年度の成果発表会の反省をいかし写真などをプレゼンテーション資料に取り入れ、ただ聞くだけでなく見て楽しめる資料を意識して資料作成に取り組めた。」

「ヒアリング調査を通じて自身の働くことへの意識を高めることもあり就職活動のモチベーションの維持にも繋がった。」

「多くの卒業生に話を聞くことで様々な生き方や仕事への取り組み方に触れることができ、それを自分の考え方などに当てはめることで多くの発見ができた。」

「インタビュー後のインタビュー録作成の際にうまく連携が取れず、作成が遅れてしまったことが反省点であると思う。」

平成30年度 **学生による地域活性化プログラム**

成果発表会

日時 平成30年 **12/1** 13:00~16:30 (受付12:15)

定員 **200名**

**入場
無料**

会場 **ホテルニューオータニ長岡「NCホール」**

※ホテル及び周辺駐車場は有料駐車場のみです。公共交通機関をご利用ください。

**学生が地域の課題を対象に調査研究を行い、地域活性化への貢献を目指す。
地域との交流を通じて、社会人基礎力を身につける。**

この教育プログラムは12年目を迎えました。発表会では、6ゼミ、7取組の学生が今年度の成果を発表し、担当アドバイザーから講評をいただきます。地域の皆さまのご来場お待ちしております。



- プログラム**
- ① **長岡の誇れる地域資源を若人に広めよう!**.....栗井英大ゼミ
 - ② **グラスルーツグローバリゼーション**
ー草の根:地域からの地球一体化:人類統合の推進ー.....広田秀樹ゼミ
 - ③ **「まちの駅」から地域の魅力を発信し、
交流人口の増加に寄与したい!**.....鯉江康正ゼミ
 - ④ **酒粕で長岡を盛り上げよう!**.....権五景ゼミ(1)
 - ⑤ **商いを通じて学ぶ会計と経営戦略**
ー地域に貢献する商品開発を通じてー.....平田沙織ゼミ
 - ⑥ **十分杯で長岡を盛り上げよう!**.....権五景ゼミ(2)
 - ⑦ **地元企業の働き方を知る**.....鈴木章浩ゼミ

総評

株式会社バルメソ

代表取締役 **松原 亨氏**

長岡市地方創生推進部
政策企画課

課長 **茂田井 裕子氏**

お申込方法

お電話または下記に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込み下さい。

申込締切は**11月26日(月)**

FAX:0258-39-9566

(お問合せ先・お申込み)

長岡大学地域連携研究センター 担当 小田原

〒940-0828 長岡市御山町80-8 **TEL:0258-39-1600(代)**

http://www.nagaokauniv.ac.jp E-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

氏名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		F A X	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。※本事業は長岡大学「地(知)の拠点整備事業」(COC事業 平成25年度~平成29年度)の継続事業として行なうものです。

平成30年度社会人基礎力診断シート (第1回)

学籍番号:

氏名:

*該当するレベルを囲み、得点と総得点を計算して下さい

社会人基礎力 3大能力	社会人基礎力 12能力要素	レベル1 <1点>	レベル2 <2点>	レベル3 <3点>	レベル4 <4点>	レベル5 <5点>	得点	
アクション (前に踏み出す力)	主体性 (物事に進んで取り組む力)	他人に何度も指示されてから物事に取り組む	他人に指示された物事に対しては取り組みが、すべきことを主体的にみつけようとしな	他人に指示されることもあるが、すべきことを主体的にみつけようとする	他人の指示を待つのではなく、主体的にすべきことをみつけられる	自分の状況を判断したうえですべきことをみつけ、率先してやりとげられる		
	働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力)	困っていても他人に協力を求められない	親しい人には協力を求められるが、親しくない人には声をかけられない	親しい人にも親しくない人にも協力を求めて声をかけられる	協力して目標を達成するため周囲の人にその必要性を説明できる	協力して目標を達成するため周囲の人にその必要性を説明し、共に行動できる		
	実行力 (目的を設定し確実に行動する力)	目的・目標を決めずに行動することが多い	目的・目標は設定するが失敗を恐れて目標を低くしたり他人に任せたりすることがある	自分の能力に見合う目的・目標を設定できる	目的・目標達成のために何をすべきかを考え行動できる(やるべきことを書き出す、やるべきことの順序づけ等)	目的・目標に対し具体的なステップを念頭に置いて行動できる(どれくらい時間・費用がかかるか、失敗したときのリカバリー等)		
	チームワーク (チームで働く力)	発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらおうと思えない	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらいたいと思うが、行動に移せない	自分の意見を他人に伝えたり理解してもらおうための行動がとれる	自分の意見をわかりやすく伝え、他人の理解や協力を得ることができる	言葉遣い、話の構成、資料を工夫し自分の意見をわかりやすく伝え他人の理解や協力を得ることができる	
		傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)	相手の話は聞くが、意識して丁寧に聴いているわけではない	相手の話を聴くための基本態度(姿勢、目線、相づち)がとれる	相手の表情や態度を読み取りながら、話を聴くことができる	相手の話を理解しようとする態度(質問・確認)がとれる	相手の話を理解しようとする態度(質問・確認)がとれ、一緒に考え意見等を言える	
		柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力)	自分の意見に反対されたり変更されたりすると抵抗する	反対意見でも相手のほうが優れていると思う場合は、自分の考えに固執しない	反対意見でも相手のほうが優れていると思う場合は、それを理解しようとする	周囲の優れた意見を取り入れ、自分の考えや行動を変えられる	周囲の多様な意見を積極的に取り入れ、一人で考えるよりも創造的な成果を出せる	
	状況把握力 (自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)	自分は何をすれば周りに貢献できるかわからない	自分の役割は理解しているが、周りに気を配れずひとりよがりになることがある	グループの中で自分がどんな役割をすればよいかを理解できる	グループの中で自分がどんな役割をすればよいかを理解し、行動できる	自分の役割を認識するとともに周囲の状況(人間関係、忙しさ等)に気を配り、物事を良い方向に進められる		
規律性 (社会のルールや人との約束を守る力)	無断欠席・遅刻が多く、締め切りも守れない	相手に迷惑をかける最低限の礼儀・ルールを理解しているが、守れないことがある	相手に迷惑をかける礼儀・ルールを守れる	相手に迷惑をかける礼儀・ルールを守り、他人を不快にさせない行動ができる	約束時間や提出物の期限をきちんと守れ、状況に応じて発言や行動を律することができる			
ストレスコントロール (ストレスの発生源に対応する力)	失敗や困難に直面すると悩んだりパニックになる	失敗や困難に直面すると一人で思い悩む	ストレスを感じるのは一過性のことと考え重く受け止めない	ストレスの原因をみつけ自力でまたは他人の力を借りて取り除くことができる	失敗や困難に直面しても、ストレスを力に変えて解決策を模索できる			
シンキング (考え抜く力)	課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力)	他人から与えられる目的・課題をうのみにする	やっていること目的・課題は何かを意識することがある	他人の意見・助言を得て、やっていること目的・課題を発見できる	自分の力で、やっていること目的・課題を発見できる	情報収集等を通じ現状を正しく分析し、それをふまえて目的・課題を明らかにできる		
	計画力 (課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)	計画を立てずに行動することが多い	計画を立てて行動するが、見通しが甘く予定通りにならない	計画を立てて行動する	計画を立てて行動しつつ、適宜、計画を見直し予定通り物事を進められる	手順や方法の優先順位を決定し計画的に物事を進め、うまくいかなかったときの解決策も考えられる		
	創造力 (新しい価値を生み出す力)	新しいアイデア・解決方法を考えられない	新しいアイデア・解決方法を考えよう意識することがある	アイデア・解決方法は出すが、独創的ではなく前例を真似することがある	独創的なアイデア・解決方法を創り出そうとする	前例にとらわれず従来の常識や発想を転換し、独創的なアイデア・解決方法を創り出せる		

↓

総得点

平成 30 年度学生による地域活性化プログラム成果発表会

【 意見シート 】

2018. 12. 1 (土)

本日の発表についてお聞かせください。この意見シートは各取組の優劣を判断するものではありませんので、忌憚のないご意見をお願いいたします。該当するものに○をつけてご意見をご記入ください。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

〔1〕 あなた様の所属を教えてください

- | | | | |
|---------------------|----------|-----------|----------|
| 1. アドバイザー | 2. 一般参加者 | 3. 本学の学生 | 4. 本学教職員 |
| 5. 本学以外の学生(大学生・高校生) | | 6. その他() | |

〔2〕 各ゼミの発表内容についてお聞きします (発表順)

ゼミ :	(ゼミテーマ)
Q 1	取組テーマ (タイトル) と内容は合致していましたか。 1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった
Q 2	この取組は地域活性化に役立つと思いますか。 1. 役立つ 2. どちらともいえない 3. 役立たない
Q 3	学生の取組として評価できると思いますか。 1. 高く評価できる 2. 評価できる 3. やや物足りない 4. あまり評価できない
Q 4	発表の仕方についてどう感じましたか。 1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題あり
Q 5	取組の内容や発表に対するご意見をご自由にお書きください。